

春秋彩

Syunjusai

特集
「くまもとを学ぶ」 2

活躍する卒業生 7
国際交流 8
研究活動紹介 10
大学の動き 12
INFORMATION 13
活き活き元気種 14
お知らせ・おすすめの1冊 15



 熊本県立大学

春秋彩とは

万葉集の額田王の春秋を論じた歌の題詞「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

熊本県立大学広報誌

2010 AUTUMN

vol. 33

あいさつ



学長
古賀 実

大学の教育力、研究力や活力を比較評価する様々な大学ランキングがメディアなどで取り上げられ、熊本県立大学は着実に大学改革を進めている公立大学として紹介される事が増えてきました。特に昨年度は、大学の地域貢献度全国ナンバー1に輝く事ができました。これは本学が得意とし、これまで地道に取り組んできた地域との連携活動が実を結んできた結果だと考えています。

地域との協働は教育の分野でも生かされています。熊本県立大学の特色ある教育内容の一つに、「熊本で学ぶ、地域を学ぶ」地域実学教育をあげることができます。熊本地域の豊富な自然環境、そこで営まれてきた人々の暮らしや築かれてきた社会、また育まれてきた多彩な文化や伝統などを積極的に教材として取り上げ、地域の人々の参画も得て、地域を正しく学び、理解することを目標にしています。具体的なカリキュラムとして、フィールドワークをはじめ、「もやいずと」育成プログラムなど、地域体験型教育を展開します。

これらの実体験を通じて地域を学び、地域活動のリーダーに求められる能力、そして応用力を備え、地域に根ざしながら、世界を見据え活躍する人材の育成を本学は目指しています。

くまもとを

熊本県は、阿蘇や天草をはじめとして、美しい景観と豊かな自然と風土に恵まれています。その自然環境のもとで営まれて来た人々の暮らし、築かれた社会、育まれて来た多彩な文化と歴史に満ちあふれています。

また、新鮮で安全な農産物、とりわけ菊池米、スイカ、柑橘類等は全国でも高い評価をうけています。さらに、ホンダ、ソニー、富士フイルム等の世界的な企業も立地し、熊本県の産業振興を支えており、来年春には九州新幹線の全線開通も予定されています。

このような地域資源を教材に学ぶことは、熊本の地域理解を深めると同時に、地域が抱える現代的課題を発見・認識する能力、課題解決能力の育成に、そして熊本県立大学が目指す「地域に生き、世界に伸びる」人材の育成につながると考えます。

本学では、熊本県全体をキャンパスと捉え、人文科系・自然科学系・社会科学系の3学部と3研究科が有機的に結合した「集約型」大学の特性を生かして、熊本ならではのさまざまな課題を地域と連携しつつ、教職員と学生が一体となって解決していくことを目指しています。

平成19年度には、これまでの学術研究及び地域連携の成果を基に、本学教員が執筆した全学共通テキスト『熊本学のススメー地域学入門』を作成しました。

学生に対して熊本についての知識を提供するとともに、熊本について学びたい、理解したいという関心や意欲を喚起するものです。毎年、新入生全員に配付し、キャリアデザイン科目群の「キャリア形成論」第1回講義における学長講話の際に使用しています。



学ぶ

前号特集『くまもとで学ぶ』に続く連載特集です。研究対象としての『くまもと』、熊本県立大学で取り組んでいる熊本研究についてご紹介します。

熊本学のススメ —地域学入門—《抜粋》

■熊本の自然、環境

熊本水物語	環境共生学部教授 篠原 亮太
八代海の水産資源の再生に向けて	環境共生学部教授 大和田 紘一
有明海の干潟アサリ漁業	環境共生学部教授 堤 裕昭
熊本の天気と大気汚染	環境共生学部教授 張 代洲
熊本城下のまちづくり	環境共生学部准教授 西 英子
熊本の大自然と都市自然	理事長 袁茂 壽太郎

■熊本の社会

熊本の行政組織	総合管理学部教授 渡邊 榮文
財政指標に見る熊本の財政	総合管理学部教授 小泉 和重
NPOと熊本	総合管理学部教授 桑原 隆広
地域情報化と熊本における実践	総合管理学部教授 津曲 隆
熊本とブランド	総合管理学部教授 棟方 信彦
経済の国際化と熊本港の利活用	総合管理学部教授 中宮 光隆
熊本県下の地域経済活性化	総合管理学部教授 森 美智代
熊本の福祉	総合管理学部教授 石橋 敏郎
熊本県の保健・医療	総合管理学部教授 荒木 紀代子

■熊本の文化、ことば

虚実伝、細川幽斎	文学部教授 鈴木 元
佐田介石と近代の言論	文学部教授 梅林 誠爾
キリシタン版が残したもの	文学部准教授 米谷 隆史
熊本方言の諸相	文学部教授 稲川 順一
熊本語の「よる」と「とる」	文学部教授 馬場 良二

学際型研究 天草プロジェクト

また、平成19年度から4カ年計画で取り組んでいる『学際型研究—天草プロジェクト』があります。天草の自然、歴史、文化、環境、地域づくりなどをテーマに、それぞれの専門性を生かしながら調査研究を行い、それら調査研究の成果を統合し、天草地域の活性化を探ります。平成22年度は、以下の研究調査に取り組んでいます。

■平成22年度において実施する研究調査一覧

調査研究名	研究者
天草「宝の海・夕陽」 日本一づくり事業調査研究	研究代表者 理事長 袁茂 壽太郎 文学部教授 半藤 英明 総合管理学部教授 明石 照久 総合管理学部准教授 澤田 道夫
「日葡辞書」に掲載の 九州方言語彙データベース作成	文学部教授 馬場 良二
近世天草の年中行事 および習俗に関する研究	文学部教授 鈴木 元 文学部准教授 米谷 隆史 文学部准教授 大島 明秀
天草市上田家所蔵古典籍の分析 と整理保存	文学部准教授 米谷 隆史
天草市の光化学スモッグや大気 汚染などの原因解明を目的とし た大気エアロゾル、ガス成分の 連続測定	環境共生学部教授 張 代洲
天草市所在の近代化遺産となる 建造物のデータベース作成	環境共生学部准教授 辻原 万規彦 環境共生学部准教授 桑田 豪
上天草で生産されている杉間伐 材を原料とする割り箸の環境評 価に関する研究	環境共生学部教授 篠原 亮太
天草ブランドづくり調査研究	総合管理学部教授 棟方 信彦

熊本の言葉の歴史と今

文学部 教授 稲川 順一

[祖母から孫へ]

パンばプーね

[孫から祖母へ]

うんにゃ、パン

[母から子へ]

プイプイ泣いとんな、
プーならペー

16世紀にフランシスコ・ザビエルを始めとするポルトガル人の宣教師達が日本にやってきてキリスト教を伝えました。この時は19世紀にペリーが来航した時とは違って、初めて西洋文明に接した日本人は格段の大騒ぎはしませんでした。ただ、宗教界は今までなかった一神教が入ってきたため、キリスト教とどう付き合っていけばいいか、困惑しました。日本人は草木一本にも自然神が宿るという多神教の考えを持っていましたし、仏教も多神教の考えをとるからです。また、宗教者でない普通の人々にとっても、唯一神を認めれば、大名の命令と神の意志とが食い違うとき、果たしてどちらをとるかという大問題が生じます。一方、宣教師達は日本の文化や人々の礼儀正しさなどには大いに敬服して、東洋の小国を評価しています。

彼らは布教するに際し、日本語の教材や、ヨーロッパ文化を日本に紹介する教材の必要を感じ、宣教師ヴァリニャーノをその計画の推進役として、天正遣欧少年使節団によりリスボンから印刷機が持ちこまれ、それらを出版するに及びました。しかし、使節団が日本に帰国した時、キリスト教は禁教となりました。そのため、印刷機を置く場所を島原、天草、



天草市河浦町にある16世紀のキリシタン関連の資料館「天草コレジヨ館」への調査



天正遣欧使節団がヨーロッパから持ち帰った印刷機と同型の複製(天草コレジヨ館所蔵)

長崎と移動しながらこれらの本を印刷するしかありませんでした。

それらは現在、大英帝国博物館に天下孤本として所蔵されている「天草版平家物語・伊曾保物語・金句集」3冊の合本をはじめとして、30点ほど残されています。その一つとしてジョアン・ロドリゲス著「日本文典(日本大文典とも)」があります。この中に当時の方言の記述があり、特に九州地方は詳しく述べられています。肥後の言葉として形容詞で力語尾を使う記述があり、その頃から「良か」「暑か」などの表現がなされていたことが分かります。その他の当時の方言が、現在もそのまま残っているわけではありませんが、その頃博多で特徴的であると述べられている訛りで、今、天草市の西岸や鹿児島県甑島で聞かれるものがあります。それは'kw'と'p'が交替する現象です(16世紀の博多でパードレをクアードレと言う等)。これは400年の時間をかけて、その訛りが伝わってきたものです。

冒頭の会話文がそれであり、意味は(パンを食べるね)(いや、食わん)(食い食い泣くな、食うなら食え)ということになります。

三菱重工業熊本航空機製作所の工場建設が戦後の 熊本市東部の発展に与えた影響に関する研究から

環境共生学部 准教授 辻原 万規彦

JR水前寺駅から本学方面へ向けてタクシーに乗ると、「引き込み線を通っていきますか?」と訊かれることがあります。『引き込み線』って一体何?と思われる方も多いでしょう。

実は、この引き込み線は第二次世界大戦中に建設されました。水前寺駅から健軍にあった三菱重工業熊本航空機製作所まで、貨物や人々を運ぶために設けられたのです。

下の写真を見て下さい。この引き込み線の終点付近の様子が見事に写し込まれています。現在の健軍東小学校付近だと思えます。



写真/豊肥線水前寺線専用線入荷車入荷(S18.2.26)
((財)三菱経済研究所史料館所蔵)

熊本航空機製作所当時の社宅の写真も残っています。当時の建物は、今でも健軍の電停の南西側に幾つか残っているようです。こちらは工員用ですが、市民病院の近くの湖東2丁目には職員用の社宅が並んでいました。それに動植物園前の道路も熊本航空機製作所の建設と同時につくられたのです。

これらの写真は、東京にある三菱史料館で見つけることができました。工場や社宅などの写真が300枚くらいはあります。こうした写真を見ていると、当時の人々の生活の様子までが、ありありと目の前に浮かんできます。

ところで、都市の起源としてはお城(城下町)や神社やお寺(門前町)が良く知られています。それに加えて、近代になってからは、企業が経営する炭鉱や鉱山、工場と社宅街の建設によって多くの都市が形成されました。そこで、数年前から社宅街の研究を始め、昨年、同じようなテーマで研究を進めている仲間と『社宅街 企業が育んだ住宅地』(学芸出版社)を出版することができました。

このような研究の一環で、一年程前から現在の陸上自衛隊健軍駐屯地の場所につくられた熊本航空機製作所とその社宅街について調べています。「本学のキャンパスは昔の飛行場の跡なんだよ」、という話を聞いたことはありました。しかし、私達の地元の歴史をもっときちんと知りたい、学生や地元の方々にもきちんと伝えたい、とも考えていました。そこで、今年度の学長特別交付金に申請し、採択されたので、本格的に調査を始めました。

熊本市の東部の発展に大きな影響を与えた三菱重工業熊本航空機製作所の建設については、まだまだ研究の途中です。当時の様子をご存じの方や写真をお持ちの方は是非ご協力をお願いします!!



写真/工員社宅(S18.4.8)
((財)三菱経済研究所史料館所蔵)

新熊本学：地域社会と企業

総合管理学部 教授 黄 在 南



地域社会と企業講義風景



フィールドワーク：
㈱九電工の天草オリーブパイロット事業所見学

熊本県立大学では、教養科目の中で「新熊本学」として、「ことば、表現、歴史」、「熊本の文化と自然と社会」、「熊本の生活と環境」、「地域社会と企業」、「地域社会と行政」、「地域社会と市民ネットワーク」という熊本にこだわった授業があります。

その中で、「地域社会と企業」について紹介します。

講義の概要

多くの方々のご協力により成り立っています。この講義は、全学共通の教養科目群に属し1~4年生を対象に開講されますが、受講者は1年生が大半であり、毎年の履修者は300名をはるかに超えています。授業公開講座として公開もしており、一般の方にも人気があります。

講義はオムニバス形式で行われ、講師陣は、熊本の財界で活躍されている経営者や管理者の方々12名。講師1人につき1回90分で、企業の経営理念、組織、具体的な経営活動、将来についての考え方、地域との関わり方、更に大学や学生への期待・要望などを講義していただきます。また、フィールドワークとして、企業活動現場に赴き、企業活動の意義、効果などの解説、施設見学も行います。

講義の目的

アイデンティティとあるべき姿を探し求めます。本学の名称『熊本県立大学』からもわかるように、熊本は本学の産室であり、そして根を張っていく大地でもあります。自分たちが如何にあるのかを知るための

努力は、アイデンティティの形成につながります。アイデンティティは将来のビジョンに、そして将来のビジョンは自分たちのあるべき姿を映し出します。

企業にとって、地域社会は世界に向けて跳ねて飛ぶための支えであり、地域社会にとって企業は活力の源であり、学生たちにとって地域社会と企業は生きる場です。そして地域社会と企業にとって学生たちは期待の星です。計り知れない無数の縁で結ばれたそれぞれのあるべき姿を模索しながら、そこに辿り着くための真の努力が何であるかを講師陣より語っていただきます。

講義の効果

学生たちは、迷いながら成長していきます。高校を卒業し大学に入ったばかりの学生たちにとって、大学で初めて味わう自由の味は、束の間の甘味かも。自由は選択の幅を広げ、自分たちの可能性を試す喜びを与えてくれますが、いつの間にか迷いの源となり、初めは甘かった自由の味を苦くさせます。18才前後の年頃の人なら誰でも経験することですが、いま何が大切で、いま何をすべきで、自分のあるべき姿は何であるかについての迷いと不安が、自由の中で、徐々ににはびこってきます。

講師の方々の明快で身近な雰囲気は、苦く変わった自由の味をもとに戻し、いま何をすべきかについて、湧いてくるイメージと自信に繋がっています。

終わりに。講師の方々の献身的なお話にひたすら感謝いたします。

活躍する卒業生

さまざまな分野で活躍する熊本県立大学の卒業生を訪ね、現在のお仕事や、ご自身の学生時代について、語っていただきます。

大学時代は好奇心いっぱいにさまざまなことにチャレンジ、現在は新聞記者として活躍され、9月18日開催「第100回日本食品衛生学会学術講演会記念事業 市民講演会」では、『食育の取材活動を通して』と題し、食の安全安心と食育についてご講演いただいた峰松さんにお話を伺いました。

熊本日日新聞社
編集局暮らし情報部記者
峰松 清子さん



Profile

熊本女子大学生生活科学部生活経営学科卒業。
1992年熊本日日新聞社入社。
2007年3月から現職。

仕事を通じて成長し、 社会に貢献できることが働く喜び

仕事を通じて成長、社会に貢献

リクルートスーツに身を包み、炎天下のビル街や面接会場を歩き歩いた日々。つい最近のことのように感じるが、社会人になり早くも18年目を迎えた。現在は熊本日日新聞で記者をしている。

所属する部署は、「暮らし」を取り巻くさまざまな記事を担当する。そのテーマは、衣食住はもちろん医療、福祉、環境、子育てなど多岐にわたっている。身近な事象の課題を取材し、生活に役立つ情報としてまとめた記事が求められる。

例えば2008年1月に発覚した中国製冷凍ギョーザ事件。製造業者の元臨時従業員が殺虫剤を混入した事件としての報道の一方で、「暮らし」の視点で掘り下げれば、食料を海外に依存する私たちの食卓が抱える課題が見えてくる。

外食や中食に頼らざるを得ないライフスタイルの背景や、安全な食品を選ぶ目と食品に関する最低限の知識の必要性、食を支える農漁業の持続につながる消費の在り方。そうして拾い上げた一つ一つの課題を記事にして、新聞紙面で伝えていく仕事だ。

1本の記事を仕上げるためにはさまざまな人に向き

合う必要がある。本質にたどり着くために広く情報を集め、取材相手の話に深く耳を傾ける。エネルギーの要る作業だが、これが財産になる。仕事を通じて自分が少し成長でき、何らか社会に貢献できることは働く喜びだ。

好奇心とチャレンジ

大学時代は、学園祭の実行委員長を務めていた。恒例のプログラムに飽き足らず「新しく面白いこと」を求め、実行委員の仲間とさまざまな新企画に取り組んだ。

事業企画書を書いて企業協賛を募り、熊本市内のライブハウスで球磨焼酎を使ったカクテルパーティーを開いたり、ポスターを全国規模のコンクールに応募して入賞を果たしたりしたことなど、授業以外のことばかりを思い出す(先生、すみません)。好奇心いっぱいにチャレンジした経験は、18年経った今でも自分の中に生きていると感じる。

学生の皆さんには、学部や学科にこだわらず興味を覚えた授業にはどんどん顔を出し、本を読み(もちろん新聞も!)、サークルやボランティア活動、旅もたくさんしてほしい。それらすべての体験は豊かな血肉となり、社会に出てからの助けとなることだろう。

4年間は長いようであっという間だ。

国際交流

～世界を学ぶ、海外と交流する～

International Exchange

「国立台北科技大との学術交流活動」

大学院環境共生学研究室 博士後期課程 三小田 憲史さん

私が所属している水環境科学研究室(篠原亮太教授)では2004年より毎年9月に訪台し、国立台北科技大と環境科学に関する国際シンポジウムを開催しています。このシンポジウムでは、2日間にわたってそれぞれの学生が自らの研究成果について英語で発表を行います。私が大学4年生の時に発表した際は英語でのスピーチはもちろん、大勢の聴衆の前で研究発表を行うのも初めての経験でしたので発表前にはスライドの校正や発表の練習を何度も行ったのを覚えています。本番の発表では大変緊張しましたが、大学院に進学して様々な場面で研究発表を行う機会がある現在では、学部時代に英語で口頭発表をしたことがその後の大きな財産になったと考えています。

台湾では他にも台北市にある最新式の廃棄物焼却施設や、花蓮県の環境保護局、エコタウン事業が行われている地域などを見学させていただきました。エコタウン事業とは廃棄物を出さない「ゼロ・エミッション」を目指す事業のことで、日本では水俣市を含む26カ所がエコタウンとして承認されています。そのエコタウンは台湾でも広がりつつあり、優れた環境技術を持つ企業を誘致する政策などに

ついて、環境保護局の局長に説明していただきました。また、台北科技大の学生に案内してもらい、有名な故宮博物館や台湾の超高層ビルである台北101など台北市内を観光しました。台湾の学生とのコミュニケーションは基本的には英語でしたが、どうしても通じない場合には紙に漢字や英語で単語を書き、筆談を交えながらやりとりをしました。

台北科技大の教員や学生による日本訪問もほぼ毎年行われています。熊本の魅力を紹介するために熊本城や阿蘇の水源地を案内しているほかバーベキューや花見、食事会などで交流を深めています。彼らを熊本でおもてなしすることで、台湾で私たちがお世話になったお礼が少しでもできればと考えています。これらの活動を通じて今さらながらではありますが、国際交流に限らず友人や知人との関係を継続していくためには相手を尊重し、お互いにとってプラスになるwin-winの関係を目指すことが必要であると強く感じています。



台北科技大の教職員・学生との交流会 熊本にて



ポスターを使ったディスカッション



水環境科学研究室のメンバー
台北市 故宮博物館



花蓮市エコタウンでの記念植樹

世界に伸びる大学を標榜する本学では、「国際性の推進」を三大理念のひとつに掲げています。その理念をより具現化するため「国際交流ビジョン」を策定し、「学生」、「学術研究」、「地域」、それぞれの視点から全学的に国際交流活動を推進しています。

「広西大学、広西師範大学での学術フォーラム」

文学部 教授 馬場 良二

文学部では、中国の広西大学と広西師範大学で学術フォーラムを開催すべく昨年度から準備を進めてきました。

広西大学は、南寧市にある総合大学で、1928年に創設、現在5万人の学生と4千人の職員を抱える大きな大学です。1997年の広西大学外国語学院教授の熊本留学をきっかけに交流がはじまり、1998年から毎年11月に10日間前後、今までに延べ54名、本学日本語教育の実習生を外国語学院日本語科に受け入れていただき、実習をしてきました。

フォーラムは、9月22日(水)広西大学外国語学院209教室で、広西大学外国語学院日本語科の先生方18名、学部生、大学院生が大勢参加し、行われました。発表者、タイトルは以下のとおりです。

馬場良二 熊本県立大学文学部教授
日本語らしい音調と聞き取りやすい自己紹介発話

山田 俊 熊本県立大学文学部教授
中国ヤオ族の「槃瓠」説話と「八犬伝」-「天命」か「業報」か-

張 厚泉 (上海)東華大学教授
日本文化を反映させた文法学習-近い将来の日本語教育を目指して

村尾治彦 熊本県立大学文学部准教授
言葉と認知:認知形態論から見た語形成メカニズムについて

平田淳巳 広西大学外国人教師
古代日本語の条件構文-万葉集第943番歌の解釈-

五島慶一 熊本県立大学文学部准教授
芥川龍之介の<翻訳>

広西大学内外、および、中国内外の日本語日本文学研究者が一堂に会することの素晴らしさを確認し、今後さらに規模を拡大して開催していこうと話合いました。

広西師範大学は水墨画のような景色で有名な桂林市にあります。1932年に創立した総合大学で、最初のキャンパスはもとの王宮にあります。

広西師範大学との交流は、2004年に当時の外国語学院の日本語教師が熊本県の県費留学生として来日したことから始まります。2007年から毎年4日

間程度本学の日本語教育の実習団を受け入れていただき、今までに延べ22名がお世話になりました。

フォーラムは、9月24日(金)広西師範大学雁山キャンパス2-219教室でおこなわれました。発表希望者が多く、1校から2名までの制限を設けたほどでした。本学教員4人以外の発表は以下のとおりです。

張 軍 桂林理工大学外国語学院
夏目漱石作品における脇役的人物について-「明暗」の吉川夫人をめぐる

張 云云 広西師範大学外国語学院
城之崎にての空間表象

曾 文華 桂林理工大学外国語学院
江戸時代における「忠」の思想-「忠臣蔵」を例として

韋 登山 桂林旅遊高等専門学校外国語学部
《広西ガイド》

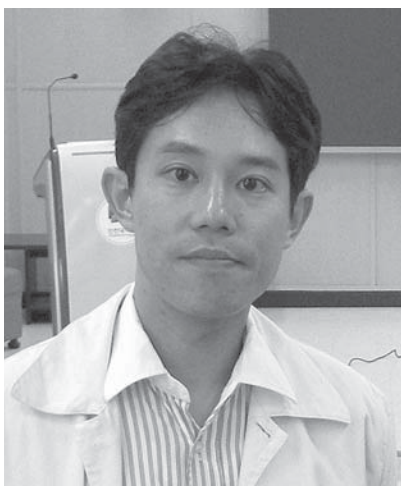
楊 勇 広西師範大学外国語学院
接続助詞「から」と「ので」の使い分けへの再考察

広西壮族自治区の区都である南寧市には広西大学にしか日本語科がありませんが、桂林市では広西師範大学、桂林理工大学、桂林旅遊高等専門学校の3大学に日本語科があります。これら3大学の、研究者が一堂に会し交流を深めることができました。

同じ広西壮族自治区ではあっても、南寧市から桂林市へは特急列車で5時間かかります。広州での航空機乗り換えなど非常にハードなスケジュールでしたが、その甲斐のある実りの大きい中国訪問でした。



芥川龍之介と世界へ—— そしてそのために



文学部 准教授
五島 慶一

Profile

慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程単位取得。
慶應義塾志木高等学校教諭などを経て、2010年4月から現職。

日本近代文学というあり方

芥川龍之介を中心に日本近代文学の研究を行っています。

日本の近代、すなわち明治以降の文芸がそれ以前のものとは大きく異なる点は、それらを取り巻く環境の変化にあると思います。即ち、そこでは印刷技術の発展に伴って、新聞・雑誌などの発表媒体（メディア）が多数生まれ、膨大な数の作品が広く流通する可能性を持った結果として、作家や作品は市場経済的な論理に晒される結果となりました。（芸術的に）「優れた」作品と（大衆に）「売れる」作品とが、必ずしも一致しないという状況が生まれてきたわけです。「無名作家」・「一発屋」などもこの時代以後登場したあり方です。

また、作家の職業化が完成したのもこの派生です。即ち、筆一本で食っていくということが一部の作家にとっては可能となったわけですが、それは同時に彼らに、生活のために一定の頻度で作品を発表することを義務付けた事態でもあります。その結果として、例えば芥川龍之介のような著名作家の個人全集には、今日一般には余り読まれていない、どこかその名すら知られていないような多数の作品が収録されることとなります。

私の研究対象・手法

しかし問題は、そうした作品が、一般に読まれないことはともかく、研究者の間でも余り取り上げられることなく、半ば埋もれているような状況にあることにあります。芥川で言っても例えば「羅生門」については毎年確実に新たな論文が発表されるのに対して、未だ殆ど言及のない作品も少な



学会機関誌「芥川龍之介研究」



第5回国際芥川学会(於 韓国・仁川大学)にて、アジアの芥川研究者と共に

らず存在します。

そうした、謂わば有名作家・芥川の無名作品群に改めて光を当て、それらをきちんと読んで意味づけていくこと、その作業を積み重ねることで、従来与えられている、一般そして研究史でも流通しているような、イメージ先行的な作家観というものを、作品の独自の〈読み〉に基づいて描き変えていくこと、これらが当面の私の研究課題であり方法です。

具体的には、芥川龍之介の作家活動(キャリア)の中期に位置づけられる作品群に対して、個別に読解を行う論を順次発表あるいは準備しているところであり、遠からずそれらを統合して、そこから見えてくる彼の創作の方法について纏めたものを上梓したいと考えています。

国際芥川龍之介学会の取り組み—— 真の国際化に向けて

「国際化」(のための手段)と聞いて、すぐに「英語」と短絡的に結びつけるのはいいかげんやめましょう。なぜ英語でなければならないか、他の言語的選択肢はないのか、を精査する前に、多数派と思われるものに就くのは愚かしいこと——少なくとも学問的態度ではありません。

研究との関連で言えば、私は現在「国際芥川龍之介学会」の理事としてその運営に携わっています。理念としては芥川文学の魅力の世界に発信するために、現実行動的には各国の研究者の連絡と交流を推進して、研究の連帯を図るために、年に一度海外で研究発表大会を行い併せて論文集を発行しています。大会は2010年にその第5回目が行われましたが、その前年度のイタリア大会を除いて、他

は総て韓国・中国・台湾など、東アジアでの開催となりました。ここには日本から出かける際の費用的な問題もあるのですが、それより以上に大きいのは本会海外会員の大半がそれらの国々に属しているためです。

例えば村上春樹などの現代日本文学作品が、欧米などで早くから広く読まれてきたことは周知の通りです。しかし、研究として日本近代文学を読む者は、こと芥川に限って言えばやはり中・韓を初めとするアジア諸国に多いようです。特に最近、この両国ではこれまでの研究者の営みの成果として、かなり充実した芥川全集がそれぞれの地域言語で刊行されています。一方、英語圏では、やはり最近出たペンギンクラシックスのアンソロジーが、それに村上春樹の序文が付されたことと相俟って日本でも話題となりましたが、逆にそれが目新しいことである程度に、研究状況は遅れているということです。

そうした足元を見つめ、それを大事にすることからやっつけていかない限り、つまり上辺だけを広げた〈国際化〉はいずれバブル経済のように破綻を見ることと思います。勿論、そう名乗る以上、国際芥川龍之介学会も現況に自足するつもりはなく、今後は欧米への展開が課題となるのですが。

同時にそれは私自身にも帰ることであり、まずはここ熊本県立大学で自らの研究の足元を固め、その上で種々の活動を通じて地域そして世界にその成果を発信していくことを目標とし、かつ学生にもそうした意気を求めたいと思います。それが「地域に生き、世界に伸びる」という本学の Motto にも適う態度だと思えますから。

学生自ら企画・運営

熊本県立大学の体育祭「PUKリンピック」開催

昨年20年ぶりに復活した体育祭「PUKリンピック」が、今年も5月15日(土)に小峯グラウンドで開催されました。約450人の学生が参加し、玉入れ、綱引きや大縄飛び等でさわやかな汗を流し交流を深めました。昨年に引き続き体育祭実行委員長を務めた田上香菜子さん(総管3年)は、「大変なことたくさんありまし

たが、多くの人に支えられてよい経験ができました。とても感謝していますし、幸せだと感じています！」と熱く語りました。



今年も鹿児島と福岡で開催“九州巡回リレー講義”

九州巡回リレー講義は、九州圏域において存在感のある大学を目指して2008年度から開催しており、今年度は、鹿児島県と福岡県で開催します。まず、「かごしま講演会」を7月24日(土)にかごしま県民交流センター(鹿児島市)を会場に10代から70代までの幅広い年齢層の方々の参加のもと開催しました。

また社会人の方からは「久しぶりに学生時代に戻ったようで有意義で楽しかった」などの多くの好意的な意見をいただくことができました。

また、11月23日(火)にソラリア西鉄ホテル(福岡市)において「ふくおか講演会」を開催します。

半藤 英明 副学長、鹿児島県出身の上拂 耕生 准教授による講演に続き、本学学生が高校生の参加者に向けてメッセージを送りました。参加した高校生からは、「大学の授業を受けているようでとても楽しかった」「現役大学生の話が聞いて大変参考になった」などの意見が、



熊本県立大学奨学金の充実

熊本県立大学未来基金へ奨学金の給付を目的に寄附された、熊本県立大学同窓会紫苑会並びに西部電気工業株式会社からの寄附金を原資として、平成22年度から新たに次のとおり奨学金の給付を実施します。

(1)同窓会紫苑会奨学金

対象者:紫苑会準会員で、学業成績・人物ともに優秀であり、かつ経済的理由から修学が困難と認められる者

対象人数:全学年から10人程度

給付額:200,000円/人(給付期間:1年)

(2)西部電気工業奨学金

対象者:学業成績・人物ともに優秀であり、かつ経済的理由から修学が困難と認められる者

対象人数:4人程度 ※22年度新入生から適用

給付額:240,000円/人(年額)(給付期間:正規の修業年数)

本で結ぼうこころのかけはし

熊本県立大学学生による月出小学校児童への読み聞かせ事業

熊本県立大学では、本学と同じ小学校区内にある熊本市月出小学校との連携のもと、学生ボランティアによる絵本の読み聞かせ事業を始めました。

事業実施に先駆けて、学生ボランティアの皆さんは、6月に読み聞かせボランティア講座を受講し、読み聞かせの練習をしてきました。

第1回目を9月14日(火)に学生ボランティア2人が月出小学校に向き、昼休みを利用して行いました。100人を超える小学生が詰めかけ、大盛況でした。

また、読み聞かせの後に、熊本県立大学図書館特製の手作りしおりを児童一人ひとりに手渡しました。

読み聞かせを行った総合管理学部2年赤池 恵さんと

同4年 村上 絵美さんは、「緊張しましたが、子どもたちの笑顔を見られ、また、触れ合うことができ、私自身もとても楽しむことができました」「参加してくれた子どもたちに葉を渡していた際、『県立大学に行きたい!』と言ってくれた子がいたことに、感激でした」とそれぞれ感想を語ってくれました。



学習のことで相談したいことがある学生の皆さんへ

LSS (Learning Support Space) スタートしました!!

『LSS』では、本学の学生の皆さんを対象に、先輩の大学院生や4年生の学習サポーターが、経験等を活かして学習の仕方、レポートの書き方等修学上の相談に応じています。

学習のことならちょっとしたことでもOKです。お気軽にご利用ください。

場 所 図書館3階
(従来のグループ学習室2です)

実施日時 週替りで「月、水、金」と「月、火、木」で実施(祝日、長期休暇期間は除きます)
実施時間は、全て12時～15時

利用方法 手続きは不要です。学習サポーターが待機していますので、お気軽にお越しください。
※電話やメールによるサポートは行いません。



第4回熊本県立大学 食育標語コンテスト 受賞作品が決定!!

熊本県立大学では、学生に対する食育の普及啓発を目的として毎年「熊本県立大学食育標語コンテスト」を実施しています。

今回は「笑顔を育む“食”と健康」のテーマで募集し、92点(学生の部71点、一般の部21点)の応募がありました。応募作品の中から、審査会を経て、学生の部、一般の部それぞれ最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作3点の作品が受賞となり7月の食育の日に表彰を行いました。ご応募いただきました皆さま、誠にありがとうございました。

学生の部

■最優秀賞

「語り合う 明るい食卓 笑顔の輪」
吉本 若葉さん
(環境共生学部食健康科学科1年)

■優秀賞

「いただきます 食と生命に 感謝して」
木下あさこさん
(総合管理学部総合管理学科2年)

「明日へと 生命をつなぐ “食”リレー」
出口 香織さん
(文学部日本語日本文学科2年)

一般の部

■最優秀賞

「おしゃべりが 料理のうまさ ひきたてる」
齊藤 令子さん(熊本市)

■優秀賞

「あったか笑顔の食卓は
感謝の種を 育てる大地」
藤井 京子さん(合志市)

「キャンパスの 笑顔と生命 守る食」
本田 由妃さん(教職員)

7月の「食育の日」 限定メニュー

合志さんち(産地)の cafeごはん

『おまかせ野菜たくさん どプレート』

- 手作り桑の葉パンとヒタパン
- タンドリーボーク
- ラタトゥイユ
- カラフルピクルス
- いろいろお豆のスープ
- スイカとパンナコッタ



※毎月定める「食育の日」には、包括協定先などの食材を活かし学生が開発したオリジナルメニューを提供しています。

後援会便り



平成22年度熊本県立大学 後援会総会での講演の様子

毎年度、総会の際に講演会を開催していますが、今年度は近年の厳しい就職状況を乗り切るために毎日コミュニケーションズの土山氏を講師に迎え、「再び到来した就職氷河期の本当の要因～2010年就職戦線報告～」の題目で講演をしていただきました。

後援会 とは

- 本学学生の保護者またはこれに準ずる方を会員として組織されています。
- 大学の教育事業を後援し、大学と家庭及び社会との協力によって、大学教育の成果をあげることを目的としています。

【後援会の事業】

次の4つの事業を中心に学生の活動全般を支援しています。

《就職対策事業》

- 就職対策講座として、公務員講座、二級建築士講座、簿記講座等を開催。
- 適職診断プログラムの実施、各学部による就職支援事業への助成、OB・OGと連携した就職支援事業の展開。

《学生活動支援事業》

- 各サークルの活動費の一部、全国大会出場経費等の一部を助成。
- 学生のリクエストに応じ図書を購入し、図書館へ配置。

《国際化推進事業》

- 海外留学・研修期間に応じて渡航経費の一部を助成。
- 留学対策講座の開催。

《教育研究助成事業》

- 学生共同自主研究助成(学生グループが自主的に行う研究経費の一部を助成)
- 国内学生大会等出場助成(インターゼミナール等への出場経費の一部を助成)

活き活き元気種!

このコーナーでは、サークル活動をはじめ、地域で活躍する熊本県立大生の声をお届けします。

“続けていく、つながっていく”大事さを、
これからも受け継いでいきたい

代々熊本県立大学生たちが、経営・運営しているリサイクルショップ『EARTH COLLECTOR』は、1999年のオープンから11年目を迎えました。

不用になった洋服や靴、バッグなどを預かり販売する委託販売システムを中心に経営。品揃えもよく価格も安いと評判の同店代表を務める藤本さんにお話を伺いました。

熊本県立大学生が、経営・運営している『EARTH COLLECTOR』は、委託販売を中心としたリサイクルショップです。お客様のいらなくなったお洋服や靴、バッグなどを2ヶ月間お預かりし、売れた金額の6割をお客様に返金するシステムとなっています。

この店は、代々熊本県立大学生が受け継いでおり、今年で11年目を迎えます。主な活動内容は、土日をメインとした店番、お金の管理、商品の陳列・整理、ピラ配りなど、店舗を運営していくうえでの基本的なことです。学生は土日しか店番ができないため、平日はアルバイトの方を雇っています。現在のスタッフの人数は、4年生7名、2年生4名、1年生1名の13名となっております、それぞれに代表、副代表、会計、シフト係などの役割分担をしています。スタッフ



『EARTH COLLECTOR』代表
藤本 真美さん
総合管理学部総合管理学科 4年

全員が明るく元気で、オシャレが大好きなメンバーばかりです。

EARTH COLLECTORのスタッフの一員となって私自身が学んだことは、1つの店舗を運営することの難しさや厳しさです。売り上げや集客を上げること、どのように店を宣伝していくかなど、発想力や行動力が必要となります。また、お客様にご迷惑をかけないよう、店として成り立たせていかなければならないという責任感が大きいのしかかります。1つの店を自分たちが中心となって経営しているという責任は、時には私たちを苦しめることもあります。しかし、自分たちで提案し、それを成し遂げたときの達成感は、苦しかったことも吹き飛ばすくらいうれしいです。頑張れば、頑張った分だけ目に見えて成果がでることが私たちの成長に繋がっています。

また、他の学生よりも一足早く社会の厳しさを知ること、人と人とのつながりの大切さを改めて感じることができます。お客様とのつながりやスタッフ同士のつながりがなければ、この店は続けていけません。どんなに厳しい局面に合っても11年続けて来られたのは、温かく見守っていただけるお客様や、店のために頑張ってくれるスタッフのおかげです。

“続けていく、つながっていく”大事さを、これからも代々受け継いでいけたらと思います。



EARTH COLLECTOR
<address>熊本市城東町5-48
<tel> 096-359-8979

熊本県立大学未来基金へのご協力に、心よりお礼申し上げます。

熊本県立大学未来基金につきまして、平成22年3月1日から9月30日までの間に、下記のとおり個人55名、2法人・団体等の皆様から総額30,755,000円のご寄附をいただき、これにより、平成21年9月8日設立以来の基金総額は、87,109,000円(申し出分を含む)となりました。皆様のご協力に厚くお礼申し上げます。ご寄附をいただきました皆様に感謝し、ここにご芳名を掲載させていただきます。

1. お名前・寄附金額の掲載を希望されたご寄附者

(寄附金額別、五十音順、敬称略にて掲載させていただきます。)

奨学金として当面10年間で総額2千万円 } 熊本県立大学同窓会紫苑会
 設立60周年記念として1千万円 }
 5万円…………… 矢住 ハツノ (株)尾鷹林業
 3万円未満…………… 堀江 清次郎

2. お名前のみ掲載を希望されたご寄附者

(五十音順、敬称略にて掲載させていただきます。)

※○内の数字は、累積寄付回数です。

【個人】

赤池 厚子 有蘭 幸司 岩越 優子 内田千佐子 浦田 晶子
 小川 裕子② 尾田 清子 清田 博子 田内 康敬 田中 祐治
 道本千衣子 徳永 昭子 豊田由里子 信川 真紀 古田 勝人
 本田 幸子 村上 博一 山崎 拓哉 山田 俊 横山 圭子
 李 麗 渡辺 礼子

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されないご寄附者

【個人】 31名



熊本県立大学同窓会紫苑会から、同会の設立60周年を記念して熊本県立大学未来基金へ総額3千万円のご寄附の申し出がありました。本学では贈呈いただいたご寄附を教育研究環境の充実並びに有為な人材の育成のために有効に活用させていただくことといたしました。

●寄附金の内容

熊本県立大学同窓会紫苑会
 設立60周年記念として…………… 1千万円
 熊本県立大学同窓会紫苑会奨学金として
 ……………当面10年間で総額2千万円

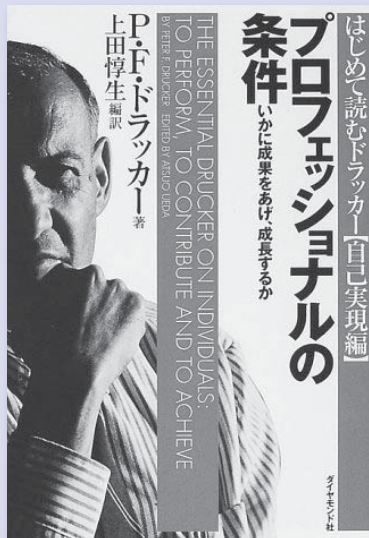


養茂理事長から本田会長へ感謝状を贈呈

おすすめの1冊

「プロフェッショナルの条件」

P.F.ドラッカー著
 上田惇生編訳 ダイアモンド社



「Peter F. Drucker」入門書の一つとしておすすめ

“経営の神様”として、日本にも多大な影響を与えた社会学者です。10年程前にその存在を知り、以来、折にふれ読み続けています。

本書は、知識が経済の中心となった現代社会において、競争力を左右する知識労働者がいかにして成果をあげ、貢献し、自己実現するかについて述べています。

成果をあげることは「習慣」であり、そのために実行することとして、たとえば「失敗し続けても、目標とビジョンを持ち努力を続ける」「常に“神々が見ている”という真摯な仕事観を持つ」「日常生活の中に継続学習を組み込む」「自らの強みを知る」など事例に基づき助言しています。続きに興味を持たれた方はぜひ一読ください(本学図書館蔵書)。

「何によって憶えられたいか」を自らに問う

本書は、自らの生き方や働き方をマネジメントするための指南書としてもおすすめです。人は自らの強みを知り、集中すべきは何かを考え、自らの成長に責任を持つ必要があると述べています。「自分は何によって人々に記憶されたいか」を常に問い続けることが新しい自分の発見につながるかもしれません。



環境共生学部 准教授
 渡邊 純子

熊	本	県	立	大	学
ギ	ャ	ラ	リ	ー	

熊本県立大学在学中に3年連続して二科展に入選し、平成22年3月に学長表彰された尾池絵梨子さん(総合管理学部総合管理学科平成22年度卒)の絵画を紹介します。
この絵画は、平成19年の第92回二科展に入選したもので、尾池さんより本学へ寄贈され、現在は学長室に飾られています。



想(4) 作/尾池絵梨子

F50号 1167×910mm

尾池絵梨子さんによる絵画紹介

この作品は、大学2年の時、初めて二科展に出品するために描いた第一号の抽象画です。自分の身長程あるサイズのキャンバスに、自分の頭の中で描くイメージを表現するのはとても難しく、単純に見える抽象画でも完成まで数ヶ月かかりました。

これからも、歳をとるにつれて、その時々自分を描き続けていければと思います。

「春秋彩」へのご意見・ご感想お待ちしております。

本誌についてのご意見・ご感想を下記までお寄せください。
いただいたご意見は、今後の広報誌編集の参考にさせていただきます。
〒862-8502 (住所記載不要)
熊本県立大学企画調整室「春秋彩」担当
FAX 096-384-6765 E-mail kikaku@pu-kumamoto.ac.jp

発行:熊本県立大学

〒862-8502 熊本市月出3丁目1番100号
TEL 096(383)2929(代)
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>

再生紙を使用しています

PRINTED WITH
SOY INK
この印刷物は大豆インキを使用しています